《薬局サーベイランスコメント》

『1 週間当たりの国内の推定患者数は第 8 週（2 月 22 日～28 日）まで 4 週連続して 100 万人を超えており、流行のピークは過ぎ去りつつあるものの、現状のままでは 3 月に入った第 9 週以降も本格的な流行が継続する可能性がある』

2016 年 3 月 1 日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬局サーベイランス（http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html）からの 2016 年第 8 週（2 月 22 日～28 日）の 1 週間当たりのインフルエンザの推定患者数は 1,181,947 となり、2 週連続で前週の値（第 6 週 1,348,670、第 7 週 1,248,152）を下回りましたが、緩やかな減少であり、4 週連続で 100 万人を上回っています（図 1）。各都道府県別の第 8 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると、福井県、奈良県、愛媛県、広島県、岐阜県、富山県、鳥取県、大分県の順となっており、まだ 17 県では増加が見られています。2 月 29 日（月）の推定患者数は 275,214 と第 8 週の月曜日の値（2 月 22 日：282,319）よりも減少していますがわずかであり、第 9 週の患者数は引き続き減少していくものの、まだ本格的な流行は継続していくものと予想されます。

2015 年第 36 週から 2016 年第 8 週までの累積の推定患者数は 6,435,510（6,436,000）であり、年齢群別では 5～9 歳（21.5%）、40～49 歳（13.1%）、10～14 歳（12.8%）、30～39 歳（12.7%）、0～4 歳（11.1%）、50～59 歳（7.6%）、20～29 歳（6.9%）、15～19 歳（5.2%）、60～69 歳（5.5%）、70 歳以上（3.6%）の順となっています（図 2）。殆どの年齢群で前週よりも減少していますが、5～9 歳、10～14 歳の年齢群では再増加がみられています。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf）によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（2,361 検体解析）は、A/H1pdm 55.9%、B 型 29.7%、A/H3（A 香港）亜型 14.4%の順となっています（図 3）。また、直近の 5 週間（2016 年第 4 週～第 8 週；これまでに 900 検体検出報告）では、A/H1pdm 60.9%、B 型 33.3%、A/H3（A 香港）亜型 5.8%の順となっていて、本格流行となってからは A/H1pdm と B 型インフルエンザの混合流行が続いています。

2015/2016 シーズンのインフルエンザの患者数は 1 月に入って急増し、1 週間当たり

の国内の推定患者数は第 5 週以降第 8 週まで 4 週連続して 100 万人を超えており、流行のピーク（第 6 週）は過ぎ去りつつあるものの、現状のままでは 3 月に入った第 9 週以降も本格的な流行が継続する可能性があります。今後ともインフルエンザの患者数の推移には注意深い観察が必要です。

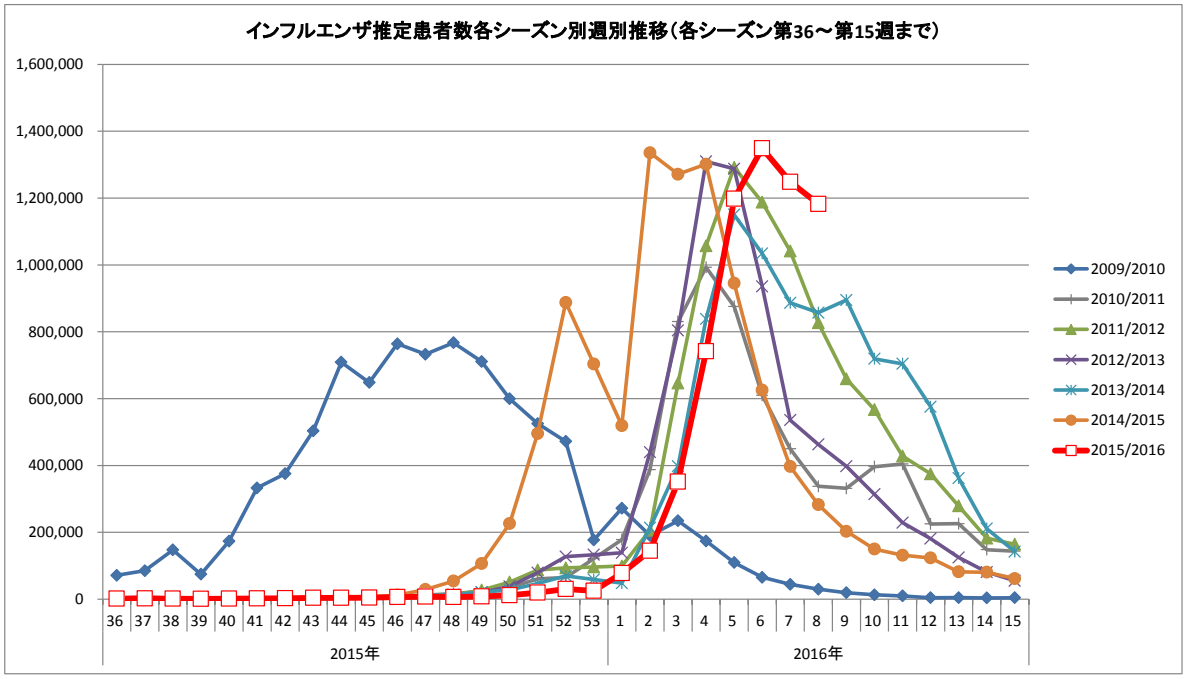

図 1. 過去 5 シーズンと今シーズン（2015/2016 シーズン）の第 36～第 15 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

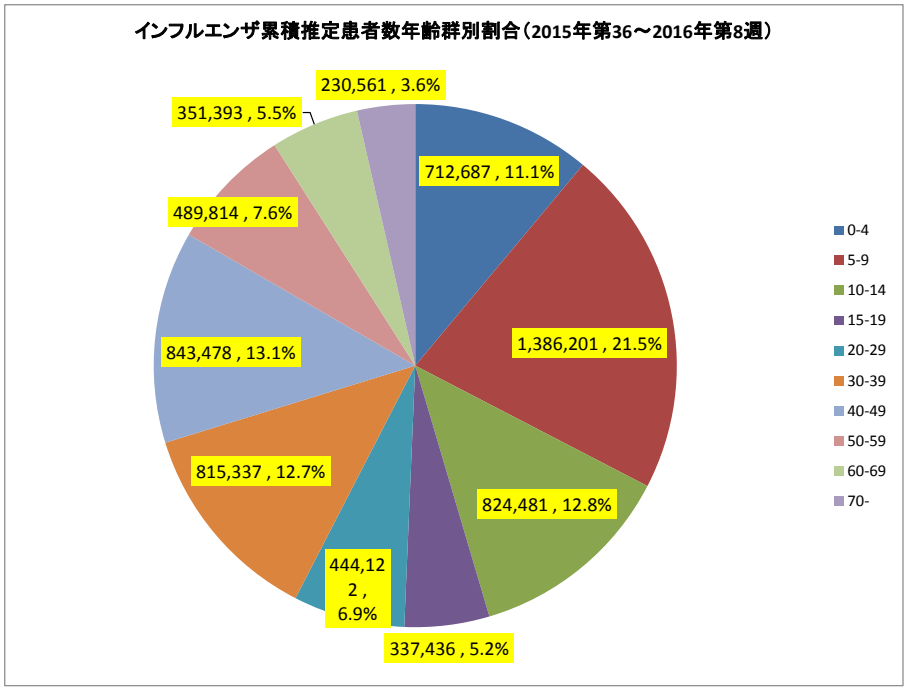

図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2015 年第 36～2016 年第 8 週、累積推定患者数= 6,436,000）
）

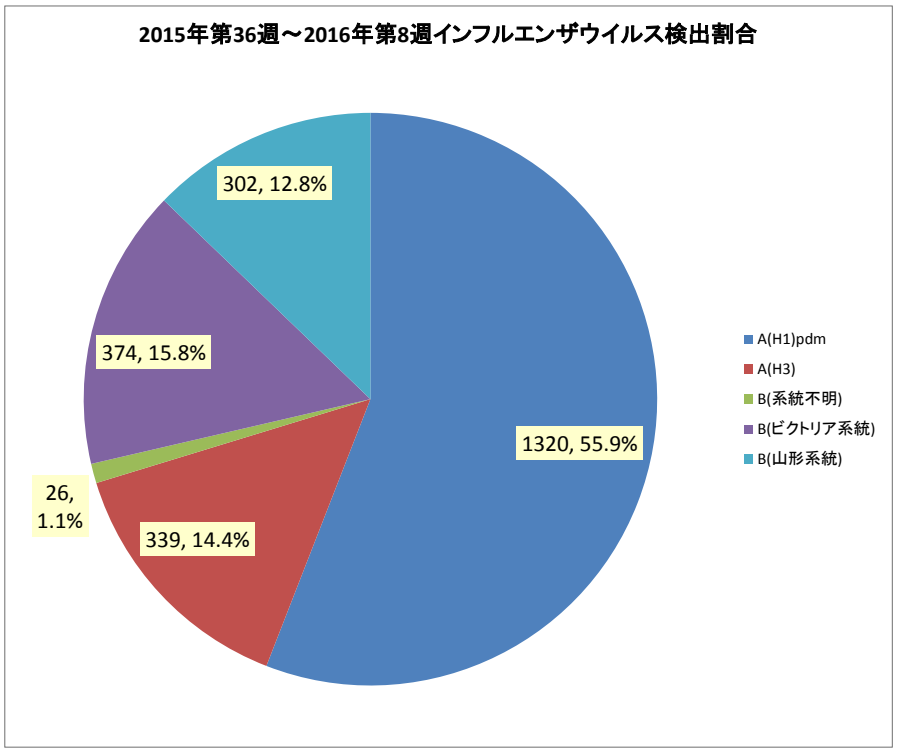

図 3. 2015 年第 36～2016 年第 8 週インフルエンザウイルス検出割合（総検出数=2,361）